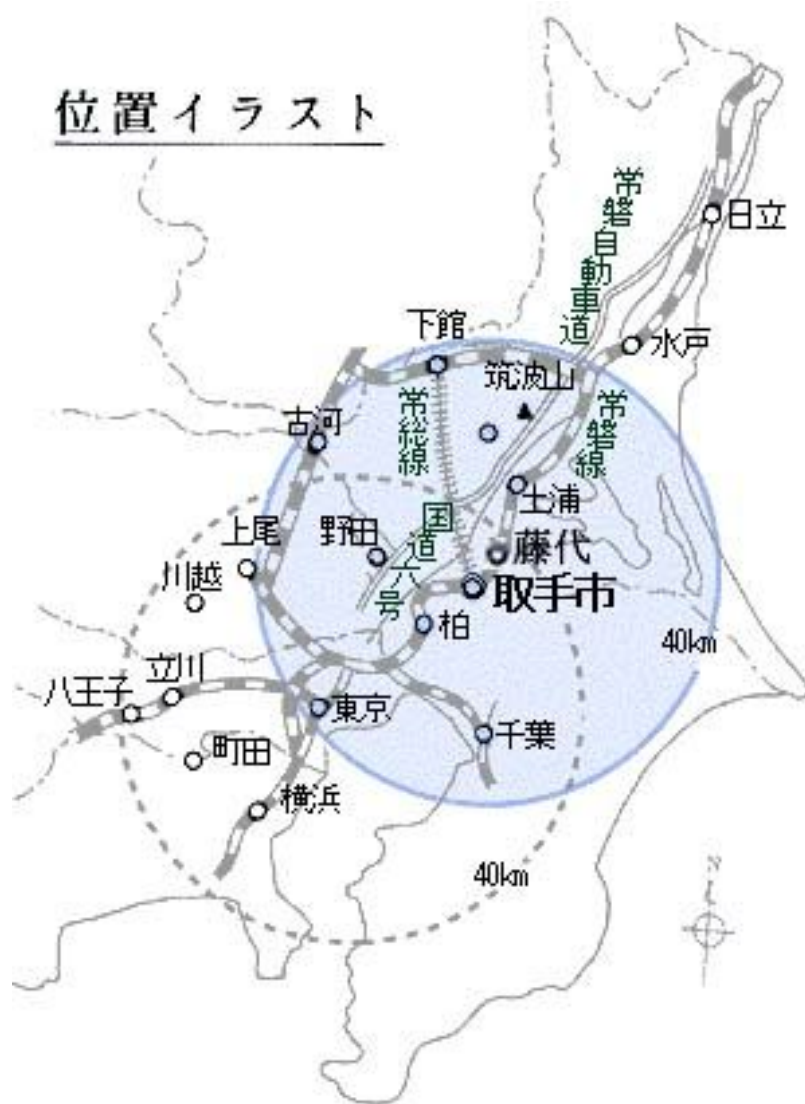


事例番号 032 芸術の杜のまちづくり(茨城県取手市)

1. 背景

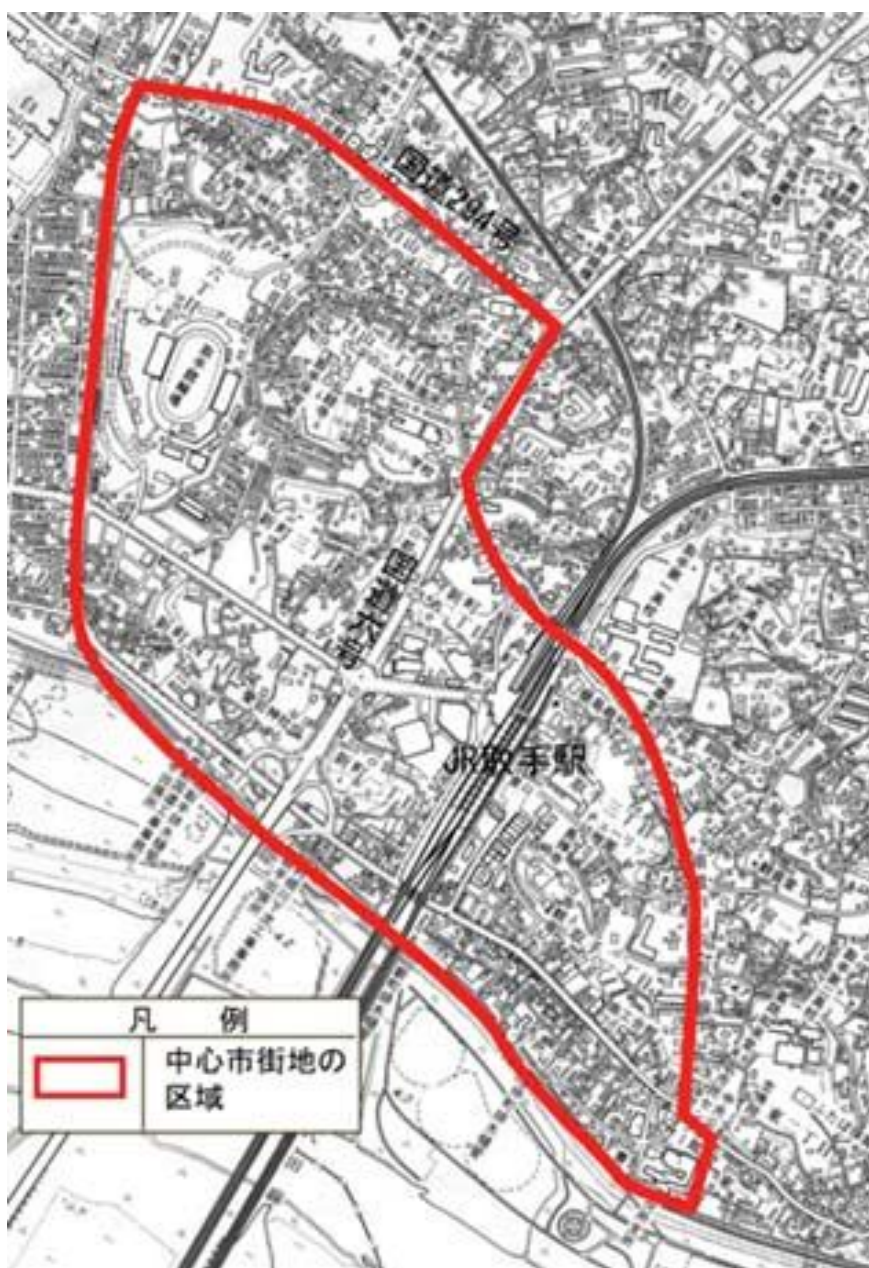
取手市は茨城県最南部に位置し利根川に面する人口約 11 万 2 千人(2006 年)のまちである。対岸は千葉県であり、東京都心からは 40km の距離にある。水戸街道の宿場町および利根川舟運の河岸として発展した。取手駅東口には弘法大師をまつる長禅寺があり、大師講(お大師参り)の日には多くの参拝客が訪れて参道は市で賑わった。

取手市にはJR常磐線と関東鉄道常総線(取手と下館を結ぶ)の便があり、東京への近さもあって近年はベッドタウンとして発展してきた。取手駅周辺には高等学校(取手一校)、市民センター(生涯学習施設)などの教育・文化施設、市役所、簡易裁判所などの公共施設、病院、大規模商業施設が集積しており、高い利便性を享受できた。一方、娯楽活動や芸術・文化活動などは柏市や東京方面へ流出していた。



取手市の位置 (資料:取手市ホームページ)

このような中、1991年に中心市街地からやや離れた利根川沿いの丘陵地に東京芸術大学取手校が開学した。その結果、取手駅周辺は学生や教官が行きかう場所となった。また、公開講座や作品展など芸術に触れるイベントを通じて芸術家と市民との交流が頻繁に行われるようになった。そして、坂のある取手駅周辺の景観とあいまって地区の新しい魅力を形成するようになった。そのような動向を踏まえ、取手市は2000年に策定した中心市街地活性化基本計画で「芸術の杜」というコンセプトを打ち出した。同計画では、中心市街地の再生活動を舞台芸術における6つの活動プロセスに見立てた基本戦略を採った。その後採用された地域再生計画においても「芸術の杜」の創造を目標とした。本稿ではそれらを中心に取手市の取り組みの概要を紹介する。



取手市の中心市街地の区域 (資料:取手市ホームページ)

2. 目標

中心市街地活性化基本計画(2000年度策定)では、約20年後の中心市街地の将来像を「芸術の杜」とした。これは、東京芸術大学や歴史・文化遺産を芸術というキーワードでまとめ、その芸術を中心にまちを再生しようとするものである。同計画では中心市街地の基本目標を次のように設定している(取手市ホームページより)。

- ① 芸術を取手市の個性として位置付け、すべてのまちづくり施策において芸術性の展開を図り、交流人口の拡大を図る。
- ② 取手駅周辺地区を「市民の生活・文化・交流拠点」として位置付け、商業、交通、居住、教育、福祉、環境、防災、保健といった各種都市機能の充実を図る。
- ③ 利根川に代表される自然や水戸街道の宿場町としての歴史・文化なども取手らしさを演出する要素として引き続き活用を図る。
- ④ 21世紀の新たな社会潮流を視野に入れたまちづくり施策の展開を図る。

また、2005年度に策定された地域再生計画(「取手“芸術の杜”創造プロジェクト」)では「東京芸術大学との連携施策や中核施設等の整備にあわせて、人材育成やフォーラムの開催などにより、市民の生活・文化交流を推進するとともに、安全・安心・快適な歩行回遊環境の確保を図るなど、ソフト・ハードの両面から「芸術・文化、商業・業務、情報、行政等の都市機能が集積・融合する“芸術の杜”」を創造する」とし、目標達成のための定量的な指標を次のように定めた。

- | | |
|------|---|
| 目標 1 | 交流人口の拡大の視点
(取手駅の定期券外利用者数の増減) |
| 目標 2 | 芸術の杜における市民レベルの「担い手・人材育成」の視点
(毎年20人程度の人材育成) |
| 目標 3 | 「芸術・文化活動の活発化」「芸大のある街のイメージの醸成」の視点
(取手駅圏における音楽・美術関連事業の開催回数及び参加者数の増減) |
| 目標 4 | 「生涯学習ニーズへの対応・活発化」の視点
(図書館利用者数の増減) |

3. 取り組みの体制

取手市が中心主体であるが、市民、商業者、行政、東京芸術大学の関係者、地元の芸術家なども重要な役割を担っている。また、これらの諸主体をコーディネートする組織として TMO の設立が計画されている。

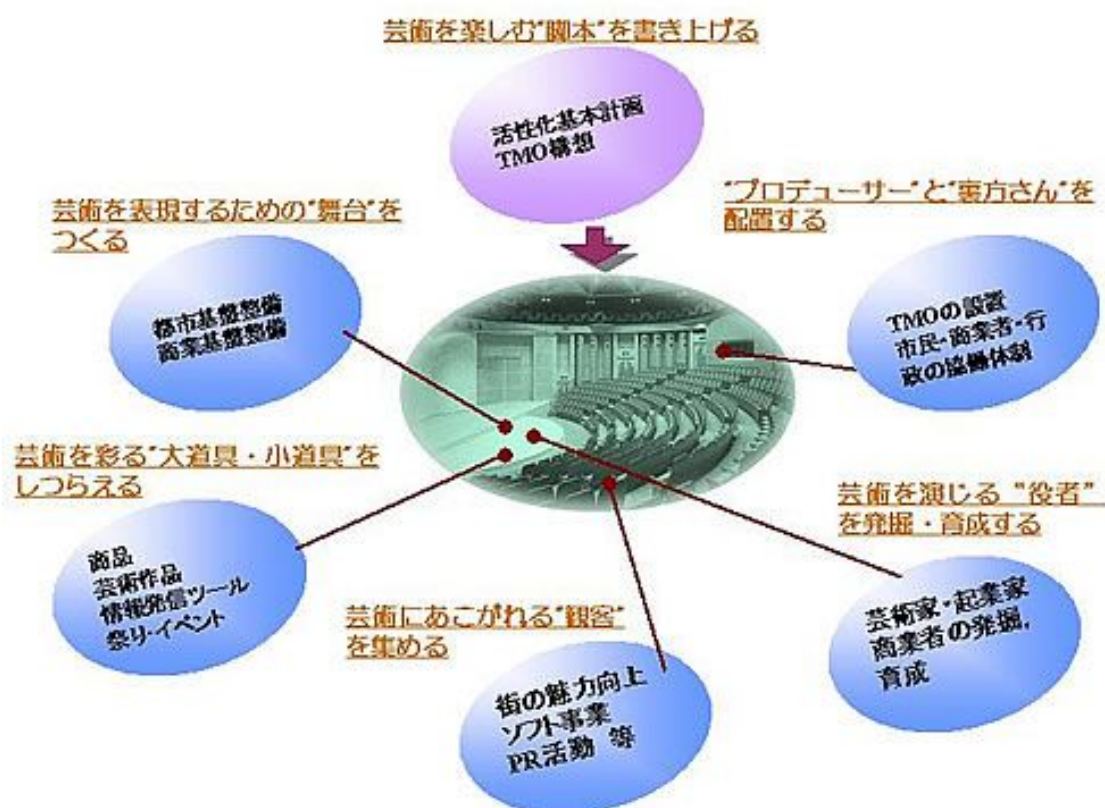
4. 具体策

(1) 中心市街地活性化基本計画(芸術の杜計画)

中心市街地をひとつの芸術作品(舞台芸術)と見立て、「脚本を書く」、「舞台をつくる」、「演出、プロデュースをする」、「大道具、小道具を揃える」、「役者を発掘・育成する」、「観客を集める」の各視点を中心市街地活性化のための基本戦略とした。それぞれのプロセスの内容は以下のようにな

っている。

「脚本を書く」	中心市街地活性化基本計画の策定や TMO 構想の策定
「舞台をつくる」	都市基盤整備や商業基盤整備などのハード面の整備
「演出・プロデュースをする」	TMO の設置や市民・商業者・行政の協働体制づくり
「大道具・小道具を揃える」	魅力的な商品や芸術作品, 祭り・イベントの開催
「役者を発掘・育成する」	芸術家やまちの演者である商業者の育成
「観客を集める」	様々なセールスプロモーション活動の実施



6つの基本戦略 (資料:取手市ホームページ)

この戦略に基づき概ね 20 年後を目標に 66 の事業が計画されている。例えば「舞台をつくる」の「空間的な拠点配置とネットワーク計画」では、取手駅を中心に芸術文化拠点、歴史拠点、教育拠点、緑の拠点などの各拠点を中心市街地に整備し、これら拠点間を徒歩・自転車・緑のネットワークで結ぶこととしている。地区別に整理された主な事業は以下のようにになっている。

[取手駅周辺(芸術の杜エントランスゾーン創造プログラム)]

都市間交流及び中心市街地における回遊ネットワークの結節拠点として、取手駅の機能強化を図る。また、東西の回遊性を創出する上で重要なポイントである常磐線跨線橋の四ツ谷橋を芸術の杜を象徴するシンボリックな橋とする。

駅西口広場の拡張整備、取手駅東西歩行者自由連絡通路の整備、レンタサイクル駐輪場の整備、常磐線跨線橋の四ツ谷橋へのシンボリックなデザインの導入、取手駅駅舎への高質なデザインの導入、取手駅ビルにおける衣料・飲食・書籍・芸術関連等の各種専門店等の商業施設の充実、東西自由通路の整備に併せた情報発信施設の整備等

〔駅西口付近(「芸術創造発信ゾーン創造プログラム)〕

「芸術創造発信ゾーン」として市街地開発事業により都市基盤整備を推進し、大道具である「芸術館(仮称)」を整備する。

取手駅北土地区画整理事業(1993 年度～)の推進、再開発事業等による建築物の共同化・協調建て替えの促進、建築物等のデザインの規制・誘導、駐車場・駐輪場の整備、回遊環境の整備、高齢者住宅の整備、複合型商業業務施設の整備、「芸術館(仮称)」(ホール、美術館、劇場等)の整備、公園・広場の整備、「情報交流施設」の整備、教育文化施設(図書館、公民館、専門学校等)の立地誘導等

〔駅東口付近(芸術と文化が織成す文化ゾーン)〕

東京芸術大学取手校へと続く「芸術創造の都市軸」(芸大通り)や、歴史拠点である長禅寺を抜けて水戸街道の面影を残す宿場町商店街へと誘う「緑のネットワーク」を整備する。

〔旧取手宿付近(宿場町商店街ゾーンの創造プログラム)〕

旧取手宿本陣を中心に、造り酒屋、呉服屋、土産物屋のほか芸術家たちのオープンアトリエが軒を並べる宿場町を彷彿させる商店街にする。

水戸街道の歴史的景観を創出するための地域の合意形成に基づく建物・広告物デザインの規制・誘導の導入、電線地中化等による街並みの統一化、歴史的な雰囲気と調和した街路灯及び道路舗装面のデザイン導入、街道・宿場・本陣等に関わる歴史情報発信案内施設(本陣資料館)の整備、歩車共存道路整備、レンタサイクル・電動カートの導入、低床バス・コミュニティバスの利用促進、芸術家や芸大生のためのアトリエ・工房を併設した住宅施設の整備、空店舗・空地等を活用したチャレンジショップ事業等の導入、伝統産業の誘致(造り酒屋、呉服屋、和菓子屋、金物屋等)や個店を中心とした商業施設の立地誘導、芸術関連施設(アトリエ・工房等)の誘致、仮想商店街(バーチャルモール)の開設やカード事業の導入といったインターネットや携帯端末・FAX 等を活用した販促・PR活動の実施、芸術文化活動の創造・発表の場とするための市民センターの改築整備等

〔白山商店街付近(芸術薫る市場商店街ゾーンの創造プログラム)〕

芸術館から国道 6 号を横断して伸びるネットワーク上にある白山商店街は、日常の生活をサポートする店舗の他、芸術家たちが創作活動をする空き店舗活用アトリエや画材屋がある市場風の活気ある商店街にする。

既存建築物の更新に併せた店舗の共同化・協調建て替え等の促進、共同駐車場の整備、芸術家や芸大生のためのアトリエ・工房を併設した住宅施設の整備、広場と共同ミニ店舗等からなる賑わい空間の整備、地域の合意形成に基づいた店舗・広告物等の規制・誘導、電線類

地中化等による街並みの統一化、街路灯及び道路舗装面への高質なデザイン導入、店舗シャッターのキャンパスとしての活用、緑豊かな美しい居住環境を創出するための建築物のデザインの規制・誘導、敷地内や崖線への緑化の推進等



芸術館イメージ（資料：取手市、他も同じ）



旧取手宿沿道イメージ



白山商店街イメージ



旧取手宿本陣

(2) 地域再生計画

地域再生計画は、上記プロセスの中の「脚本を書く」、「演出・プロデュースをする」、「大道具・小道具を揃える」、「役者を発掘・育成する」に焦点を当てている。

「脚本を書く」では、取手における「持続可能な芸術・文化展開方策」を策定する。そこでは東京芸術大学、地元企業、市民などの産学民官が協力して芸術・文化の発信基地や活動の拠点となる「芸術館」の施設計画・運営方策などについて検討する。「演出・プロデュースをする」では「プロデューサー、裏方さん」を育成することに焦点を合わせる。「役者を発掘・育成する」では「文化芸術による創造のまち事業」によりアートマネージャー養成とマネジメント実践活動とを行う。これに関しては隣接する守谷市で展開されている「アークスプロジェクト(茨城県主催)」と「取手アートプロジェクト」(1999年度から取手で開催)との連携を図り、市町村を超えて地域一体で芸術・文化振興を図る。

「大道具・小道具を揃える」に関しては複合施設「(仮称)市民情報プラザ」の整備を図る。プラザは音楽ホール、美術展示ホール、「芸術の杜」のシンボリック施設となる「芸術館」、市民の生涯学習ニーズに対応したe図書館、市役所サービス窓口、住宅、および民間商業サービスが一体となった施設である。また、芸術の杜を市民や来街者が安全、快適に回遊できる歩行環境を確保するため、取手駅とプラザとを結ぶ「歩行者デッキ」及び「取手駅東西自由通路」を延伸する。

地域再生計画の主要事業



(資料:取手市)

「(仮称)市民情報プラザ」は市民の生活・文化交流拠点であるとともに駅周辺の建築物整備を誘導する先駆的な事業でもあることから、取手市はより有効な施設整備を図るため民間事業者の公募に向けて関係機関等との協議調整を進めている。

「取手駅東西自由通路」の整備は、駅東西口の市街地の一体化、安全・快適な歩行回遊環境の確保に加えて、来街者等に対する情報受発信機能の提供を目的としている。そのため、国、県、公共交通事業者等の関係機関による特定プロジェクトチーム「取手駅東西自由通路整備計画策定委員会」を設置して各種協議・調整の円滑化を図っており、自由通路の早期実現を目指している。

(3) 都市再生モデル調査

以上の計画を進めながら、取手市は都市再生モデル調査によりブロードバンド・インフラの構築・活用及びまちなか活性化のための「アーバン・マネジメント」の展開に関するプログラム開発等について調査している。「アーバン・マネジメント」は、「ブロードバンド・インフラが可能にする各種の公共的サービスやビジネス・コンテンツの提供を総体的に管理する事業」を意味するが、公共性と営利性という2つの性格を持ち、未だ市場性も確認されておらず、この事業を担うことになる住民と地元活動家中心の組織「UMO 取手」のバランスシート成立の見通しを得ることが今後の課題となっている。

(4) NPOの駄菓子屋経営等

2004年6月、駅東口の大師通り商店街に空き店舗を利用した駄菓子屋が営業を始めた。この駄菓子屋は、かつて賑わっていた長禅寺の大師講(お大師参り)を復活させようとの意図で地元商店主や市民が設立したNPO「取手ぶるく」(2004年5月設立)が始めたものである(試行的には2002年から始めていた)。「取手ぶるく」は併行して「大師通り縁日」の開催、運営も行っている。「取手ぶるく」の事業内容には「学術・文化・芸術・スポーツの振興」が掲げられており、芸術の杜計画との連携が期待されている。

5. 特徴的手法

東京芸術大学や歴史資産を地域資源として活かしつつ、中心市街地をひとつの芸術作品(演劇)に見立てて、ハード、ソフト両面で総合的にまち再生を図っている点が特徴的である。また、隣接する守谷市で展開されている「アークスプロジェクト」との連携を図り、地域一体となった広域での芸術・文化振興策を展開している点も大きな特徴である。並行して、ブロードバンドという先進的通信技術の活用が試みられている点、市民の手で伝統的な市の復活が試みられている点に取り組みの幅広さがある。

6. 課題

市民情報プラザ整備などのハード事業や人材育成などのソフト事業の多くは今後展開される予定のものであり、舞台演劇を現実のものとするために引き続き着実な取り組みが求められている。

(参考・引用文献)

都市再生本部ホームページ / 取手市ホームページ